

関学大生協と地元漁協がコラボメニュー
「LOVE SEA丼」

林崎産のアナゴが丼ぶりで9/27(火)から登場!

関西学院大学生協生活協同組合が地元の漁協と協力して取り組むコラボ企画「LOVE SEA丼」に瀬戸内海・林崎産のアナゴを使用した「穴子天井(400円)」が登場する。期間は9月27日(火)～29日(木)で、場所は西宮上ヶ原キャンパスの食堂。



この取り組みは、関西学院大学生協と摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会が、若い世代に地元・兵庫県の水産物の魅力を知ってもらうことを目的に2013年から開始。今回はホタルイカが使用された。毎回、瞬く間に完売する人気企画だ。今回の穴子天井は、井からはみ出たアナゴと野菜のてんぷらが盛られる。

言語コミュニケーション文化研究科
公開セミナー開催
10/22(土) 梅田で

関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科の教員による公開セミナーを下記のとおり開催する。

2言語環境に生まれ育った「バイリンガル」に対する評価は否定的であったり、肯定的であったりしてきた。そこには偏見や迫害、また誤解や過剰な評価に伴う期待、羨望という当人達にはコントロールできない外的要因が絡んでいるという。セミナー後は入試説明会を実施する。

※一般参加可、無料、事前申し込み不要

- 日時：10月22日(土) 13時～16時
- 場所：大阪梅田キャンパス1004教室
- スケジュール：13時～14時20分 セミナー
14時30分～16時 入試相談会
- セミナー講演者：山本雅代・関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科教授
- 講演タイトル：「バイリンガル：偏見と迫害、誤解と垂涎賞賛の波間に漂う人々」
- 問い合わせ：関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科 (TEL: 0798・54・6180)

仏文学者が脚本執筆し、出演も
演劇「レミゼって呼ばないで」

9/30(金)～10/2(日) 大阪で上演



東浦弘樹・文学部教授

ヴィクトル・ユーゴーの名作『レ・ミゼラブル』の主人公ジャン・バルジャンが、作家の書いた通りの人生を生きるのが嫌になり、本を飛び出して21世紀の日本に現れるという奇想天外な戯曲『レミゼって呼ばないで～または、本を飛び出したジャン・バルジャンの華麗な冒険』を執筆。ジャン・バルジャンが場末の喫茶店に逃げ込むという設定のこの芝居を大阪市西成区のカフェ+ギャラリー「ジャン・トゥトゥクー (can tutku)」(地下鉄四ツ橋線、花園町)で、9月30日(金)から10月2日(日)まで上演、自らも出演する。この公演はフランス文化の伝播に役立つとして、在日フランス大使館が後援している。



東浦教授は、フランス文学を研究する関西学院大学文学部の教員で、演劇ユニット・チーム銀河の代表でもある。演劇を始めたのは、京都大学在学時。その後は、しばらく演劇から離れていたが、関西学院大で教員になり、演劇に取り組むゼミ生とのつながりから、2012年に兵庫県立ピッコロ演劇学校の本科へ入学。自分で作品を作り始めたのはこの頃で、「若い人たちと芝居ができるのが本当に楽しかった。体が続くまで芝居を続けたい」と、2014年にチーム銀河を結成した。これまでに「チェーホフなんか知らない～または、余はいかにしてロシアの文豪となりしか」などを執筆し出演してきた(写真下、左端)。



「今後もできれば書けなくなるまで書き続けたい」と笑顔を見せる。

本資料に関する報道関係者からの問い合わせは関西学院広報室(TEL:0798-54-6017)までお願いします。